

2022年4月入職

はっとりゆうき
服部裕貴



全体を俯瞰し、先読みして動くこと

メンタルケアも含めて、チーム力を高める

仕事は人生において何十年と続いていくものであり、職種を選ぶ際にはやりがいを何よりも重要視していました。臨床工学技士を選んだのは、人と人との関わりあいの中で思いやりを提供でき、患者さまの支えになっている実感を得やすいと感じたからです。

新卒で入職してもうすぐ3年になり、個人で遂行する業務に関してはある程度慣れていく時期を迎えています。その中で私が意識しているのは、全体を俯瞰した上で優先順位をつけながら業務に取り組むことです。たとえば、朝の透析で使用したベッドは、昼に使わないこともあります。その場合、ベッドの片付けは後回しにして、今すべきことにリソースを割いた方がオペレーションはより円滑になります。マネジメントにおいても優先順位を大切に、ときにはスタッフのメンタル面を優先させることも少なくありません。細心の注意を要する穿刺を終えた後は、少しインターバルを置いてから次の方を担当してもらった方が、時間は多少ロスしたとしても、チームとして提供するサービスの質は高まると考えています。

誰がみても正しいと思える最適解を



入職時から思いやりエキスパートに興味を持っており、いつか挑戦したいと考えていました。上長から声をかけてもらったときは、「ついに私も！」と嬉しさが込みあげてきたことを覚えています。ただ、ずっと目指していたので、研修中は緊張感がありました。

研修をとおして一番変わったのは、患者さまとの向き合い方です。多くの患者さまに対応するためには効率性も求められる一方で、限られた時間

のなかでもお一人おひとりとの対話を増やせる余地があると思いました。一方で、親しくなった方に対して接遇を崩し過ぎないことも重要です。患者さまと医療従事者という関係性を念頭に置き、「誰がみてもこの対応は正しい」と思える最適解を常に体現したいと思っています。目指していた思いやりエキスパートになれましたが、患者さまはもちろん、スタッフや業者さまに対しても謙虚な姿勢を忘れてはなりません。施設にプラスの影響を与えられる存在になれるよう、日々の業務も地道に取り組んでいきたいと思っています。



相手の立場になって
物事を考え、心の満足を
提供します。

服部裕貴